

令和2年度事業報告書

～ みやぎの赤十字 ～



日本赤十字社

Japanese Red Cross Society

宮城県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目次

• 特集	東日本大震災から10年プロジェクト	P 1
	震災の記憶を風化させないための取組み	
• 1	災害救護事業	P 4
	地震・豪雨などの災害への備え	
• 2	国際活動	P 8
	グローバルな赤十字のネットワーク	
• 3	医療事業	P 9
	地域の中核病院として地域医療に貢献	
• 4	看護師養成	P 11
	質の高い赤十字看護師の養成	
• 5	血液事業	P 12
	安定的に安全な血液を確保	
• 6	いのちと健康を守る赤十字の講習	P 13
	健康で安全な生活を送るために役立つ講習	
• 7	赤十字奉仕団・赤十字ボランティア	P 14
	赤十字を支えるボランティア活動	
• 8	青少年赤十字 (JRC)	P 16
	子どもたちの優しい心を育てる赤十字	
• 9	会員と活動資金	P 18
	赤十字を支える県民の皆様の善意	
• 10	赤十字思想の普及	P 20
	赤十字への理解を深めるイベントなど	
• 11	令和2年度決算	P 23

<表紙写真>

「東日本大震災から10年プロジェクト」オンライン語り部LIVEの国内外赤十字ユースメンバー向け配信で、ホスト役を務めた宮城県青年赤十字奉仕団

● 特集 「東日本大震災から10年プロジェクト」

被災地では、東日本大震災の記憶が風化していると多くの人が感じています。当支部では、「誰にも同じような経験はしてほしくない」という被災者の想いに寄り添って震災を「絶対に風化させない」と改めて決意し、さらに、これまでの海外からの支援にも改めて感謝を伝えるため、「東日本大震災から10年プロジェクト」を実施しました。

このプロジェクトは、

- ・震災後10年の振り返りと、未来に繋がるメッセージの発信
- ・次世代に震災を継承し、次の災害発生時の行動に繋げる
- ・災害から人々が守られる社会づくりに繋がる活動（防災・減災への取り組み）

をテーマに職員・ボランティアが一体となった事業を企画し、また、翌年度以降も継続可能な取り組み、Web配信による全国・海外に向けた幅広い発信、新型コロナウイルスの流行が終息した後、実際に被災地を訪れてもらえることを念頭に置き活動しました。

なお、このプロジェクトは、国民の皆さんや国内企業から「被災地の復興支援のために」という想いで寄せられた寄付金を活用しています。

① 新聞等を通じた支援している人、支援された人の交流

河北新報へのインタビュー記事掲載やYouTubeチャンネルでの動画配信を通して、救護活動や復興支援事業・ボランティアで支援している人、支援された人それぞれの、この10年間や近況、感謝の思いを双方に向けて発信しました。



日赤を通じたクウェート政府からの資金援助で海苔養殖事業を再開した南部さん。その感謝の声を、クウェート駐日大使にも届けることができました。



② 災害公営住宅入居者へのメッセージ発信

発災直後から石巻地域で活動した全国の日赤職員と、石巻きずな新聞舎のボランティアが写真とメッセージを寄せたメッセージカードを作成し、発災10年となる3月11日に合わせて石巻市の災害公営住宅に入居されている皆様にお届けしました。また、多賀城市で復興支援活動を行った徳島県支部の赤十字奉仕団から寄せ書きフラッグが寄贈され、同市の災害公営住宅にお届けしました。



震災時に石巻地域で活動した全国の日赤職員と石巻きずな新聞舎ボランティアからのメッセージを石巻市内の災害公営住宅に届けました。



徳島県内の赤十字奉仕団からの寄せ書きフラッグを多賀城市内の災害公営住宅へメッセージ映像とともに届けました。

③ 「オンライン語り部LIVE」で語り部さんの生の声を全国・世界へ生配信

公益社団法人3.11みらいサポート（石巻市）と協働し、被災地で活動が続いている語り部の方々の生の声を全国のJRC加盟校や国内の赤十字ユースメンバー、海外の姉妹赤十字社のユースメンバーなどへオンラインで生配信しました。特にユースメンバーへの配信では、宮城県青年赤十字奉仕団がホスト役となって同世代間の交流や意見交換を図りました。

参加した皆さんからは『いってきます』『ただいま』という当たり前の言葉がこんなにも幸せな言葉だと分かった。大切にしていきたい」「当時の状況を自分事としてとらえることができ、胸が詰まった」「当時は幼く、地震・津波の情報をほとんど知らなかった子供たちも心に響いたようだ」と大きな反響がありました。

このJRC加盟校やユースメンバーへの配信の好評を受けて、全国の赤十字奉仕団を対象とした配信も行いました。



率直に語られる震災時の重く大変な体験に、真剣に聞き入る山口県のJRC加盟校の生徒の皆さん

対象	配信数	参加地域等	参加人数
JRC加盟校	27回	27都道府県 / 103校	10,951名
赤十字ユースボランティア	国内向け	16都県	62名
	海外向け	10の国・地域	25名
赤十字奉仕団	2回	31都道府県	239名
計	33回		11,277名



初めてのオンライン配信に、語り部の皆さんは緊張しながらも普段の活動と同様にお話ししてくれました。



ユース対象の回では、被災した旧石巻市立大川小学校から配信しました。（写真は、大川地区ふるさとの記憶模型展示仮施設）

④ YouTubeを利用した配信

チャンネル登録者数が100万人を超えるYouTubeチャンネルを活用し、震災当時の石巻赤十字病院の活動を再現したアニメを日頃赤十字との関わりが薄い若い世代へ向けて発信しました。公開1か月で再生回数816,636回を数え、「みんなが力を合わせればどんな災害が来ても乗り越えられる」というメッセージは大きな反響を呼びました。



人気YouTubeチャンネル「ヒューマンバグ大学」で震災における石巻赤十字病院の奮闘を若い世代へ伝えました。

⑤ 仙台89ERSとの防災・減災に向けた取り組み

パートナーシップ協定を締結しているプロバスケットボールチーム・仙台89ERSと協働し、県内の各試合会場で東日本大震災からの復興と防災・減災の大切さを伝える啓発活動を展開しました。

試合会場に設けた日赤ブースでは、新型コロナウイルス感染防止に十分配慮しながら、震災時の活動パネルの展示や、一次救命処置（心肺蘇生）の体験、防災に役立つノベルティグッズの配布など、防災・減災意識の醸成を図りました。

なお、12月末に計画していた登米市会場は、新型コロナウイルス感染症の影響により無観客試合となったため残念ながらブース開設を中止しました。

実施日	実施会場	試合来場者数
10/3	名取市総合体育館	717名
12/5・6	白石市文化体育活動センター（ホワイトキューブ）	1,564名
12/19・20	加美町陶芸の里スポーツ公園	1,284名
2/27・28	南三陸町総合体育館ベイサイドアリーナ	1,401名
3/13・14	ゼビオアリーナ仙台（仙台市太白区）	2,795名



試合会場に開設したブースで、来場者への啓発活動を行いました。（名取市会場）



ブースでは、希望した来場者に一次救命処置も体験してもらいました。（名取市会場）



ハーフタイムでのボール寄贈
（右：南三陸町 佐藤仁町長 左：仙台89ERS 志村雄彦社長／南三陸町会場）



仙台89ERSとのコラボレーションポスター



3月11日の発災時刻には、深沼海岸で黙祷。献花を行いました。（仙台市若林区荒浜）

1 (災害救護事業)

日本赤十字社の災害救護活動は、赤十字の基本理念である「人道」に基づいて独自に行う場合と、災害対策基本法や災害救助法で定められた国及び地方自治体が行う災害救助業務に指定公共機関という位置付けで協力して活動する場合があります。宮城県支部では常に災害に備えて救護員を養成し、訓練を重ね救護資器材を計画的に整備して災害救護体制が万全になるよう努めています。

1. 災害救護活動

(1) 災害救護活動実施状況

令和2年度は災害救護活動はありませんでしたが、コロナ禍という厳しい状況の中、令和元年の台風第19号で被害を受けた大郷町での被災者支援活動を実施しました。

【令和元年台風第19号災害の対応】

同災害で災害救護活動を実施した宮城県支部では、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、令和2年度も引き続き大郷町で被災者支援活動を実施しました。

大郷町では、応急仮設住宅に入居されている被災された方々への傾聴やストレス緩和など、自治体、社会福祉協議会及び宮城県臨床心理士会等と協働してこころのケア活動を行っています。

同町での活動は、令和2年2月に第1回目を実施、新型コロナウイルス感染拡大による中断をはさみ、令和3年1月より毎月第4土曜日実施として再開しましたが、同ウイルス感染の再拡大に伴い、令和3年2月から残念ながら再度中断しています。



こころのケア活動 (大郷町赤十字茶会)

(2) 臨時救護活動

大崎八幡宮どんと祭や石巻市北上川河川敷親子カヌー体験教室などのイベントに臨時救護所を設置し、傷病者の応急手当を行いました。

件数	派遣救護員数 (延べ)								取扱患者数
	医師	看護師長	看護師	主事	奉仕団員	支部職員	その他	合計	
4件	0名	0名	1名	0名	2名	2名	0名	5名	3名

2. 災害への備え

日本赤十字社の医療救護班1個班の編成は、医師1人、看護師長1人、看護師2人、主事2人の計6人を基準としており、災害の状況や規模などにより要員の増減、薬剤師等の必要な職種を追加する体制となっています。

宮城県支部では、災害救助法第16条及び宮城県地域防災計画等に基づき、医療及び助産についての救護、遺体の処理等について宮城県および仙台市と委託契約を結び、仙台・石巻両赤十字病院が医療救護班を常時編成して訓練を重ね、装備を充実させて常時出動できる体制を維持しています。

また、防災・減災の普及啓発活動や防災ボランティアの育成などの研修に取り組んでいます。

(1) 医療救護班の編成状況

災害による被災者の救護活動を迅速かつ的確に実施するため、仙台・石巻両赤十字病院に医療救護班計14個班を常備しています。

病院	救護班	所属救護員数						
		医師	看護師長	看護師	助産師	主事	薬剤師	合計
仙台	5個班	8名	4名	15名	1名	15名	4名	47名
石巻	9個班	10名	6名	26名	1名	24名	7名	74名



救護班任命式 (石巻赤十字病院)

(2) 日赤災害医療コーディネーターチーム

日赤災害医療コーディネーターチームは、災害時に効果的・効率的な医療救護活動ができるよう医療ニーズの把握及び他の医療チームとの連携・調整を図るため社長が任命しています。

施設名	コーディネーター	コーディネータースタッフ		
	医師	看護師長	看護師	主事
仙台赤十字病院	2名	2名		2名
石巻赤十字病院	4名	4名	5名	6名
宮城県支部	2名(※)			6名

※東北大学病院及び宮城県立こども病院医師をコーディネーターとして任命。



日赤災害医療コーディネーターチームの活動風景
(令和元年台風第19号災害)

(3) 県内各地への救護装備資材の配備

宮城県支部では、災害が起こった際に各地域で速やかに救援活動が行われるよう、計画的にテントや炊出し用炊飯器などを県内各地に配備しています。

日常的に防災訓練のほか、訓練を兼ねて地域のイベントなどでも利用されています。



赤十字救護資材倉庫



赤十字災害救援等車両「はくあい号」

【令和2年度救護装備資材配備内訳】

地区名	配備先	テント	非常用移動炊飯装置	救護資材倉庫	赤十字災害救援等車両「はくあい号」
仙台市地区本部	奉仕団			安養寺	
名取市地区	奉仕団		愛島台	愛島台	
登米市地区	地区・分区				登米分区
大崎市地区	地区・分区				松山分区
仙台地区	地区・分区			七ヶ浜町分区	
大崎地区	地区・分区			涌谷町分区	
石巻地区	地区・分区			女川町分区	
合計		0張	1組	5棟	2台

(4) 災害救護訓練

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定されていた訓練は一部のみ実施となりました。

このほか、新型コロナウイルス感染症に対応するための訓練や、施設を守るための防火訓練なども実施しています。

訓練名称	実施日	場所	参加者				計
			仙台日赤	石巻日赤	血液センター	支部	
大規模地震時医療活動訓練 (DMAT / 内閣府主催)	9/13	北海道 他				1名	1名
仙台空港航空機事故対応訓練 (オンライン)	11/21	仙台国際空港	3名	1名		1名	5名
大規模地震災害実動訓練	9/5	石巻日赤		127名			127名
第1ブロック支部合同災害救護訓練 (オンライン)	11/6	岩手県支部	7名	10名		3名	20名



大規模地震災害実動訓練



大規模地震災害実動訓練



大規模地震災害実動訓練



新型コロナウイルス感染症訓練 (実動訓練)



新型コロナウイルス感染症訓練 (実動訓練)



新型コロナウイルス感染症受入訓練 (机上訓練)

(5) 救護員研修

研修会名称	主催	開催数	延日数	参加者
救護班要員研修	仙台赤十字病院	1回	1日	69名
	石巻赤十字病院	2回	2日	54名
救護班オリエンテーション	石巻赤十字病院	1回	1日	19名
救護班予備要員(候補)研修	石巻赤十字病院	2回	2日	70名
原子力基礎研修	石巻赤十字病院	2回	2日	65名
テント設営(DRASH)	石巻赤十字病院	2回	2日	30名
こころのケア(短時間編)	石巻赤十字病院	3回	3日	88名
災害保健医療対応訓練	石巻赤十字病院	1回	1日	27名

(6) 防災教育事業

県民の皆様一人ひとり、あるいは地域の防災・減災力の向上を進めるため、災害からいのちを守り、対処していく知識や技術を学ぶ「チャレンジ防災セミナー」(個人対象)、地域コミュニティの自助・共助を高めるための「防災・減災」への新たな取組みを模索し、防災力を向上させることを目的として全国で展開している「防災教育事業(赤十字防災セミナー)」(地域対象)、親子で学ぶ「親子防災スクール」(親子対象)を実施しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部の赤十字防災セミナーのみの実施となりました。

また、青少年赤十字(JRC)事業でも、子どもたちを対象とした防災教育の普及に取り組んでいます。(青少年赤十字のページも併せてご覧ください。)

名 称	期 日	会 場	対 象	参加者数
赤十字防災セミナー	11/16	仙台市中山市民センター	奉仕団	16名

3. 災害義援金の取扱状況

日本赤十字社では、都道府県が募集する災害義援金の受付窓口として、皆様の被災地を思う気持ちをお預かりしています。お預かりした義援金は、被災された方々のために義援金配分委員会(都道府県が設置)を通じて全額お届けしています。

義援金名称	件数/受付額
東日本大震災義援金	59件/ 219,429円
平成28年熊本地震災害義援金	11件/ 61,642円
平成29年7月5日からの大雨災害義援金	8件/ 21,989円
平成30年7月豪雨災害義援金	16件/ 93,594円
令和元年8月豪雨災害義援金	18件/ 132,744円
令和元年台風第15号千葉県災害義援金	14件/ 145,235円
令和元年台風第19号災害義援金(宮城県分)	93件/ 78,501,460円
令和2年7月豪雨災害義援金	91件/ 4,961,141円
令和3年2月福島県沖地震災害義援金	7件/ 2,065,000円



2013年から毎年「東日本大震災義援金」を届けていただきました(笹谷金二(KINJI)様)

4. 救援物資の配布

宮城県支部では、大規模災害の発生時はもちろん、住宅火災など日常で起こる災害の際にも毛布などの救援物資を配布しています。

なお、大規模災害が発生した際は、全国の支部が協力して備蓄している物資を被災地に届けます。

被災区分	被災世帯	被災人数	救援物資		
			毛布	緊急セット	安眠セット
全 焼	25世帯	79名	81枚	37組	0組
全 壊	0世帯	0名	0枚	0組	0組
半 焼	4世帯	10名	12枚	3組	0組
半 壊	0世帯	0名	0枚	0組	0組
床上浸水	0世帯	0名	0枚	0組	0組
避難所	0世帯	0名	0枚	0組	0組
その他	4世帯	5名	5枚	3組	0組
合計			98枚	43組	0組



災害救援物資(緊急セット)

2 国際活動

赤十字は、192の国や地域に広がる世界的ネットワークを生かし、人びとの苦痛を軽減し、予防するためのさまざまな活動を行っています。

絶え間なく起こる災害や紛争は人びとの尊い命や財産を一瞬にして奪い去ります。赤十字では被災者への医療や衣食住の支援といった緊急救援だけでなく、その後の復興支援や防災を通じた地域の基盤づくりなど、包括的な災害マネジメントに取り組んでいます。

また、疾病や、現在パンデミックを引き起こしている新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症が世界的脅威となっている今日、健康問題に苦しむ人びとの状態を改善するために、保健衛生分野の活動を重点課題の一つに挙げ、活動を展開しています。

世界を取り巻く環境は刻一刻と変化しており、積み重なった人道的課題は終わりが見えません。こうした人道問題に対する国民の理解と関心を高めることもまた、赤十字の重要な役割の一つなのです。

1. 第1ブロックの国際支援事業

年々増加する国際事業の要請に応えるため、日本赤十字社全体としての支援に加えて、防災分野や保健衛生分野などの開発協力事業を全国の支部で直接実施しています。第1ブロック（北海道・東北地区）支部では合同で、救急法普及支援事業及び青少年赤十字海外支援事業を実施しています。

【救急法普及支援事業】

東ティモール赤十字社、ラオス赤十字社が実施する救急法普及事業への支援として、救急法指導員を派遣し、救急法の技術及び指導方法の助言を行うとともに、講習に必要な訓練用人形、三角巾などの資器材の整備など財政的支援を行っています。



三角巾を使用した止血の方法を学ぶ受講者
©ラオス赤十字社

【青少年赤十字海外支援事業】

ネパール赤十字社が実施する学校、コミュニティにおける水衛生環境の改善への支援、バヌアツ赤十字社が実施する防災教育への取り組みを支援しています。本事業は、第1ブロック支部からの拠出金のほか、日本の青少年赤十字メンバーが集める青少年赤十字活動資金（1円玉募金）も活用して実施されているため、本事業に募金という形でかかわることで、海外の青少年赤十字メンバーが抱える問題について理解を深める教育的効果も期待されています。

事業内容	対象国	当支部支援額	第1ブロック合計
救急法普及支援	東ティモール	261,000円	1,500,000円
	ラオス	522,000円	3,000,000円
青少年赤十字海外支援	ネパール	217,000円	1,250,000円
	バヌアツ	217,000円	1,250,000円
支援合計額		1,217,000円	7,000,000円

2. 安否調査

紛争や災害などやむを得ない事情で離ればなれになり、連絡を取り合うことができない家族のため、所在調査を行っています。令和2年度は、宮城県内に関する照会はありませんでした。

3. 海外救援金の受付状況

日本赤十字社では、海外で大規模な自然災害や紛争が発生した時、国際赤十字などを通じた緊急支援や復興支援のため、海外救援金を募集します。

また、日本赤十字社が独自に行う国際支援活動の資金として、毎年12月にNHKとタイアップして実施している「海外たすけあい」キャンペーンなど、普段から国際支援に特化した活動資金を受け付けています。

この海外救援金は、赤十字が実施する被災者支援活動や復興支援活動に全額充てられます。

救援金名称	受付件数/受付額
バングラデシュ南部避難民救援金	2件/ 667円
中東人道危機救援金	2件/ 844円
無指定(※)	1件/ 1,160円
NHK海外たすけあい	1,402件/ 1,950,482円

※無指定：支援先を指定しない海外救援金



保育園児による海外たすけあいキャンペーン
オープニングセレモニー（NHK仙台放送局）

3 医療事業

1. 仙台赤十字病院

当院は仙台市太白区、名取市を主な診療圏としておりますが、急性期医療では、総合周産期母子医療センター、整形外科ともに全県からの要請に応じており、その他、内科、外科、小児科など各科が、急性期医療とがん診療、透析などを担当しています。また地域包括ケア病棟は、在宅患者家族のためのレスパイト入院、亜急性期や急性増悪に対応するポストアキュート・サブアキュート入院を含む回復期機能を果たし地域医療に貢献しています。

災害医療については、令和元年の台風災害に医療救護班、昨年のダイヤモンドプリンセス号における新型コロナウイルス感染症対応ではDMATチームを派遣しております。また、地域では、仙台八木山防災連絡会に参加して地域の防災訓練などを行っています。この地域活動は、平成30年度防災功労者内閣総理大臣賞を受賞しております。

救急医療では、二次救急医療を担当しており、仙台市病院群当番制事業に参加しています。年間の救急車受け入れは、従来の1.5倍となる2,000件を達成し、日中の救急対応は大幅に改善いたしました。休日夜間の救急対応は、働き方改革による制約でマンパワーの不足が課題となっております。

外来診療は、地域医療連携室の活動により地域医療施設との連携を密にすることにより紹介率、逆紹介率ともに改善し、「地域医療支援病院」が承認されました。医師の働き方改革については、医師事務作業補助者を増員し、診療の円滑化と負担軽減を図りました。特殊外来として、産婦人科に「女性外来」、皮膚科など多職種からなる「フットケア外来」を開始しております。

また、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症を想定した救急外来のゾーニング、発熱者用陰圧診察室の設置など感染対策を実施し、発熱患者や感染疑いの患者に備えました。

チーム医療は「排尿自立支援チーム」、「認知症ケアチーム」、「フットケアチーム」、「倫理コンサルテーションチーム」、「抗菌薬適正使用支援チーム」、「口腔ケアチーム」を編成し、適切な医療の推進と対応を行っています。リハビリ関係では、言語聴覚療法、摂食機能療法のほかに「がんリハビリテーション」の施設認定を受けております。

入院診療は、入院・手術が決定した早期から、多職種のコメディカルが情報を収集して安全に手術が行えるよう準備する患者支援センターと周術期外来を開始しました。また、「人工関節センター」「関節鏡センター」を設置し整形外科の業務効率化を図っております。

令和2年度より教育研修推進室を設置し、研修医の受け入れ体制を強化しております。令和3年度は前年度に続き4名の初期研修医を迎え、さらに内科専攻医も受け入れております。

病院からの情報発信は、コロナ禍につき講演会や連携の集いは休止中ですが、ホームページや広報誌を用いた情報発信は継続して行っております。

経営収支は、前年度比で、医業収益が5.9%減、医業費用が1.1%減となり、医業収支は損失を計上しました。入院診療収益は6.0%減となり、医業収支差し引き額は378,287千円減少しました。しかし、今年度はコロナ関係の補助金により、総事業収支は576,180千円の黒字決算となりました。

本社病院支援部の立案による経営改善計画に基づき経営改善に努めた結果、地域医療支援病院、地域医療体制確保加算が認められております。入院診療単価は前年比5,280円アップの63,774円となりました。引き続き、急性期、回復期両機能において高度で効率的な機能を果たすことを目指してまいります。

令和2年度診療実績

区 分		患者数
入 院	延患者数	84,607名
	1日平均	232名
外 来	延患者数	130,504名
	1日平均	537名



仙台赤十字病院



救護班要員研修会



院内消防訓練



発熱患者対応用に設置した陰圧テント



令和2年度の初期研修医

2. 石巻赤十字病院

当院は、「世界一強く、そして優しい病院」をビジョンに掲げ、「最善のアウトカムをもたらす強靱な医療提供体制」と「職員に優しい、最高の職場環境」を実現するべく様々な施策を展開してきました。

地域医療連携については、地域の各医療機関の役割に応じた切れ目のない医療を提供するため、がんや肺炎、COPDに加え、大腿骨頸部骨折や心不全等の疾患別地域連携ネットワークの構築を進めてきました。併せて、患者さんがスムーズに入院を迎え、望ましい状態で退院・転院し、地域で安心して継続的に医療・介護・福祉サービスを受けることができるよう、入院前・退院前の早期支援体制の整備を進めています。

救命救急医療では、「断らずに済む」診療体制を維持し、令和2年度は21,999人の救急患者を受け入れ、地域の救命救急センターの役割を担ってきました。令和2年10月には、HCUの稼働を再開するとともにNICUを本稼働させ、重症度の高い患者さんに対する医療体制の充実を図りました。

がん医療では、令和2年度より地域がん診療連携拠点病院（高度型）として指定を受けました。従来の一一般のがん診療連携拠点病院の役割に加え、高度な放射線治療の提供や緩和ケアセンターの整備、相談支援業務の強化、診療実績などが評価された結果となります。

臨床研修指定病院としては、若手医師の確保・定着を目的に定員を増加し募集を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響でリクルート活動が制限される中、例年と変わらず全国各地の大学から医学生が集まりました。内科と外科の専門研修プログラムを有していますが、それぞれ採用者を確保することができ、専門医育成にも尽力しています。また、特定行為研修指定研修機関として認められ、令和元年から看護師が特定行為を行う際に必要とされる実践的な理解力、思考力および判断力のほか、高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研修を開始しました。令和元年度に3名、令和2年度に3名が修了し、臨床現場で能力を発揮しています。

災害救護活動として、救護班の派遣を必要とする実災害は発生しませんでした。また、令和2年9月には、新型コロナウイルス感染症疑いの患者を想定したマニュアルの検証を目的に大規模地震災害実働訓練を実施し、当院職員と看護学生ら約150名が参加しました。翌10月に実施した石巻・登米・気仙沼二次医療圏災害保健医療対応訓練には、当院職員や自治体、保健所の職員など約230名が参加し、石巻モデル案を基にした情報共有体制の検証を行いました。原子力災害緊急時医療施設の建設については、当初の計画に基づき進めています。

設備投資としては、10～15年の中長期計画を基に既存設備の計画的更新を実行しています。新規事業として、令和2年12月に内視鏡手術支援ロボット（ダヴィンチ）を整備し、令和3年の手術実施に向けて準備を進めています。

令和2年度の経営収支について、新型コロナウイルスの影響により入院診療収益並びに外来診療収益が減収し医業収益は前年度比3.0%減となりました。医業費用は、薬価マイナス改定や患者数の減などによる高額医薬品の消費減と給与費の減などにより前年度比3.0%減となり、医業収支の赤字額は減少しつつも連続赤字となりました。医業外収支においては、新型コロナウイルス感染症対策事業医療提供体制整備事業や救命救急センターの運営費補助金等により利益を計上しました。最終的な総収支は、1,491,282,150円の黒字決算となりました。



石巻赤十字病院



大規模災害訓練の様子



特定行為研修修了式



内視鏡手術支援ロボット（ダヴィンチ）



入社式

令和2年度診療実績

区 分		患者数
入 院	延患者数	156,961名
	1日平均	430名
外 来	延患者数	246,341名
	1日平均	1,018名

4 (看護師養成

石巻赤十字看護専門学校

1. 教育について

令和2年度は、コロナ禍で相次ぐ国や県の方針変更があり、学校の運営方法も変更を迫られ翻弄された1年でした。特に、学生や教職員の中から感染者を出さないよう病院職員同様に学生にも厳しく感染予防対策の指導を行ってきました。そのため、講義については、対面やWebにて行うことができましたが、実習は6月まで実施することができませんでした。その後、学内実習に切り替わり、文献を活用し、援助の根拠を十分に討議することで、患者さんの病態像の理解や適切な援助計画立案に取り組むことができました。反面、学生や教員の模擬患者への実施では、心理面の情報や予期せぬ反応への対応に限界があり、援助の評価が難しかったという意見がありました。この状況はいつ終息するとも不明であり、次年度はさらに、実際の場面から学ぶ限界の中でも学生の理解につながる方策を模索していきます。

また、令和2年度は、入学式、戴帽式、卒業式の三大式典をはじめ、学習参観や保護者会も縮小あるいは取りやめとなったため、学校関係者評価者会議では学校教育の様子の見えづらさが指摘されました。今後は、学校ホームページ等で学校の様子を周知するほか、より多くの情報を発信できる方法の検討が必要となります。卒業生や卒業生の就職先上司、保護者等から学校運営について多くのご意見をいただけるよう、情報発信の工夫をするとともに、令和4年度運用開始のカリキュラム改正に役立てていきます。

2. 教育環境の整備

令和2年度はIT室PCの更新を完了しました。また、コロナ禍による県の遠隔授業の推進事業により、従来の設備に加え、Wi-Fiや通信環境をさらに充実させました。万が一、学生や外部講師が学校に来ることができない状況になっても、遠隔授業を継続し、学業の修得に不利益にならない環境となりました。今後は、運用方法を整備し、Webを使った効果的な授業をさらに検討していきます。また、ハード面のみならず、コロナ禍による学生の心理面への影響も多大なものがあることを忘れずに、石巻赤十字病院の臨床心理士と協力し、学校カウンセラー相談室の継続や連携で、学生の心の支援を継続し、強化していきます。学生が自分自身で問題を解決しながら学校生活を有意義に過ごすための環境整備に努めていきます。

3. 受験生・入学生の確保

推薦入試・一般入試ともに前年度より受験生を増やすことができ、出願倍率も推薦2.0倍、一般4.7倍となりました。志半ばで退学する学生もなく、目標を掲げ、達成に向け努力する学生が確保できるようになりました。しかし、今後も18歳人口の減少や、仙台市内の新設校や県内の看護学校で定員増による受験者数への影響は危惧されるところです。令和2年度は、オープンスクールの縮小開催（高校生や保護者の入場制限など）や個別訪問への対応、進路説明会の参加、学校ホームページの更新を行い、本校の魅力や新しい情報の発信に努めました。このような活動を今後もさらに積極的にいきます。

4. 赤十字医療施設への就職状況

卒業生の母院（石巻赤十字病院）への就職者は18名（54.8%）、他の赤十字病院への就職者は3名と赤十字病院への総就職者は21名（63.6%）でした。令和元年度よりは上昇していますが、他の赤十字教育施設と比べ、まだ少ないため、今後、地域での設置病院の役割に貢献できる看護師の育成についてさらに協議を進め赤十字医療施設への就職率の維持に努めていきます。

なお、赤十字以外の病院への就職者は9名（26%）、大学や助産師学校への進学者は3名（8%）、その他1名でした。

5. 地域との連携

令和2年度は、コロナ禍により、石巻赤十字病院の新型コロナウイルス対策本部の指導もあり、地域との連携に関する活動は自粛しました。次年度は、コロナ禍における地域のみなさまとの交流方法を模索していきます。

令和2年度在校生

学年	学生数
第1学年	41名
第2学年	39名
第3学年	36名
計	116名

（令和3年3月31日現在）



石巻赤十字看護専門学校



災害看護演習



授業風景～洗髪演習～（1年生）



遠隔授業風景（1年生）



卒業式の様子



授業風景～急変対応シミュレーション～（2年生）

5 (血液事業

日本赤十字社は、安全な輸血用血液製剤を安定的に供給し、輸血を必要とする患者さんがいつでもどこでも安心して輸血を受けられるように、全国を7つのブロック（北海道、東北、関東甲信越、東海北陸、近畿、中四国、九州）に分けて、ブロック内の血液の需給バランスの調整を図る広域事業運営を行っています。

宮城県赤十字血液センターは、過疎化、少子高齢化が進む東北6県をエリアとする東北ブロックに属し、ブロックの中で人口が最も多く若年層の割合が高いことから、献血者確保の中心的な役割を果たしています。

また、輸血用血液製剤は、採血後限られた時間内で調製しなければならないため、面積の広い東北ブロックにおいて、製造業務を行う東北ブロック血液センターに隣接する宮城県赤十字血液センターは、医療機関の需要に応じて必要な血液を適時に迅速に確保するうえでも、重要な役割を担っています。

令和2年度の全国の献血者数は、5,037,920人（対前年度比+2.3%、111,432人増）で、このうち宮城県では、93,215人（同+2.0%、1,859人増）の皆様にご協力をいただきました。献血種類別では、200mL献血が1,904人（対前年度比-33.8%、971人減）、400mL献血が58,425人（同+0.7%、384人増）、血漿成分献血が21,439人（同-0.7%、141人減）、血小板成分献血が11,447人（同+29.2%、2,587人増）となりました。（グラフ1参照）

一方、令和2年度の全国の輸血用血液製剤供給本数（200mL献血を1本として換算）は、17,132,979本（対前年度比-2.0%、344,515本減）で、このうち宮城県内の医療機関への供給本数は285,572本（同-2.0%、4,387本減）でした。血液製剤別では、赤血球製剤が99,800本（対前年度比+2.4%、2,300本増）、血漿製剤が40,482本（同+4.0%、1,559本増）、血小板製剤が145,290本（同-5.7%、8,246本減）となりました。（グラフ2参照）

宮城県では、すべての献血種類別で増加しており、1人の献血者の血小板を2人の患者さんに輸血できる分割製造用血小板献血も6,914人（対前年度比+18.2%、1,063人増）の皆様にご協力いただいたことにより、医療機関の需要に応じた血液を確保することができました。

また、少子高齢化が進む中で、宮城県でも10代（平成30年度:6,246人→令和元年度:6,459人→令和2年度:4,279人）、20代（平成30年度:15,991人→令和元年度:15,788人→令和2年度:15,503人）、30代（平成30年度:15,340人→令和元年度:15,855人→令和2年度:16,288人）の献血者をいかに増やすかが喫緊の課題となっています。（グラフ3参照）

しかしながら、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大およびそれに対する社会全体的な感染防止対策措置の影響を受け、高校、大学等での献血実施の減少、また、献血可能年齢に達する前の小学生を対象とした「けんけつkidsサマースクール」等献血セミナー開催などの中止が相次ぎました。

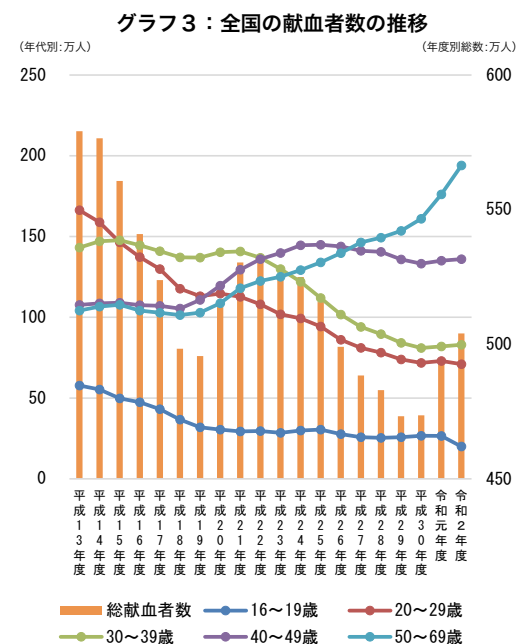
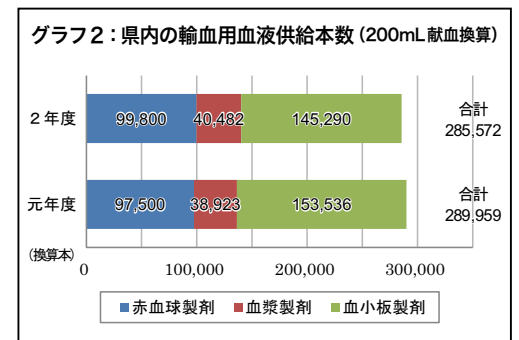
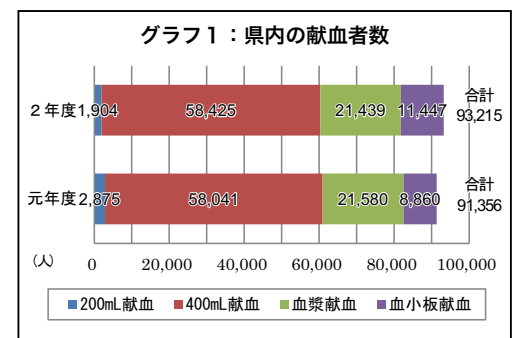


プロバスケットボール・仙台89ERSによる献血協力

宮城県赤十字血液センターでは、国の掲げる基本方針に基づき、血液製剤の安全性の向上、安定供給の確保とともに、事業の最大限の効率化及び合理化を図り、適正かつ健全な事業運営に努めています。



宮城県赤十字血液センター



6 (いのちと健康を守る赤十字の講習)

「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という理念のもと、事故防止や急病などに対する救命手当・応急手当の方法を学ぶ「救急法」をはじめ、各種講習を広く一般の方々を対象に開催していますが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、3密の回避など基本的な感染対策のほか、受講人数の制限や各養成講習の全面中止、緊急事態宣言等に応じた休止期間など講習の普及は大きく影響を受けました。

なお、東日本大震災の復興支援として短期講習の教材費などの経費を無償としていた事業は、震災の発生から10年が経過した令和2年度をもって終了となりました。これまで多くの県民の皆様にご受講いただきましたことに感謝申し上げます。

1. 救急法

病気やけが、災害から自分自身を守り、傷病者を正しく救助し、医師等に引き継ぐまでの救命手当として、「心肺蘇生（人工呼吸を除く）」「AEDを用いた除細動」「気道異物除去」「急病の手当」などの正しい知識や技術を普及しました。

区分	基礎講習	救急員養成講習	短期講習	計
実施回数	20回	0回	55回	75回
受講者数	270名	0名	1,010名	1,280名
修了者数	270名	—	—	
養成者数	—	0名	—	



救急法（一次救命処置）～3密を回避し、熱中症予防のため水筒持参

2. 水上安全法

接触する実技を避け、プール用のマスクを着用するなど工夫を凝らし、「水の事故から命を守る」ために必要な「水の事故防止」や「着衣泳」などの知識・技術を普及しました。

区分	救助員養成講習Ⅰ	短期講習	計
実施回数	0回	12回	12回
受講者数	0名	424名	424名
養成者数	0名	—	



水上安全法～陸上から器具を使った救助

3. 健康生活支援講習

「高齢者の健康と安全」「地域における高齢者支援」に役立つ知識を指導しました。

また、災害時に高齢者を不安や不自由な生活から守り、自立した生活が維持できるよう、知識や技術を普及しました。

区分	支援員養成講習	短期講習	計
実施回数	0回	7回	7回
受講者数	0名	96名	96名
養成者数	0名	—	



健康生活支援講習～うた体操
※新型コロナウイルス感染症流行以前の様子

4. 幼児安全法

子どもに起こりやすい事故の予防（安全教育）、一次救命処置として心肺蘇生（人工呼吸を除く）AEDを用いた除細動、気道異物除去と、病気への対応などの知識や技術を普及しました。

区分	支援員養成講習	短期講習	計
実施回数	0回	97回	97回
受講者数	0名	1,213名	1,213名
養成者数	0名	—	



幼児安全法～乳児の気道異物除去
※新型コロナウイルス感染症流行以前の様子

7 赤十字奉仕団・赤十字ボランティア

赤十字奉仕団には、市区町村の地域ごとに結成されている「地域赤十字奉仕団」、青年・学生によって組織されている「青年赤十字奉仕団」、看護師資格やその他の専門技術・知識（アマ無線、ビューティーケアなど）を有する方々ごとに組織された「特殊赤十字奉仕団」があります。地域でのボランティア活動や赤十字活動のサポート役として日々活動しております。

また、個人登録のボランティアとして、日赤の災害救護活動をサポートする防災ボランティア、赤十字病院や献血ルームでの日常的なボランティアなど、多くの方が赤十字ボランティアとして活動しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大下での活動実施が大きな課題でした。通常の活動が出来ない中、地域では3密を避けながらの高齢者ふれあい訪問やコロナ禍に特化した防災訓練、プラカードを使った献血呼びかけ活動の実施など、「コロナ禍だからこそできる方法で活動を行う」工夫がなされました。また、看護奉仕団の医療現場用フェイスシールド作製、青年奉仕団の老人介護施設にあてたメッセージカード作成など、各団で特色ある活動が見られました。

赤十字ボランティアの皆さんが、赤十字の一員として主体的に活動ができるよう、内部の体制整備に努め、さらに地域の日赤窓口である地区・分区と連携し活動の活性化を引き続き図ります。

1. 赤十字奉仕団結成状況

種別	奉仕団数	団員数
地域赤十字奉仕団	137団	10,652名
青年赤十字奉仕団	3団	338名
特殊赤十字奉仕団	13団	344名
合計	153団	11,334名



新規団員公募を行い、七ヶ宿町赤十字奉仕団が活動を再開。「他の奉仕団の活動を参考にしながら頑張りたい」と抱負を述べました。

2. 会議・研修等の開催状況

宮城県支部では、赤十字や奉仕団等の基礎的な理解の促進のための「奉仕団基礎研修会」、リーダー育成のための「奉仕団リーダーシップ研修会」、委員長の研修や情報共有の場としての「奉仕団委員長会議」などを開催して活動の活性化を促進するとともに、本社や第1ブロック（北海道・東北地区）の会議・研修会への積極的な参加を要請しています。

令和2年度はオンラインによる開催を取り入れたほか、奉仕団主催の研修会では人数制限や検温などの感染症対策が取られました。

会議・研修会 主催者	開催数	参加者
本社	2	2名
支部	3	40名
第1ブロック	1	1名
奉仕団（基礎研修会）	7	189名



奉仕団主催の研修会では、日赤の新型コロナウイルスガイドブックを活用して、病気・不安・差別という3つの側面を学ぶ団もありました。（大崎市鳴子赤十字奉仕団）

3. 赤十字防災ボランティア

日本赤十字社では、日赤の災害救護活動をサポートする「防災ボランティア」を募集しています。宮城県支部では、現在96名が登録しており、毎年、災害時に活動するための知識と技能を研鑽してもらう研修会を実施しています。（令和2年度は中止しました。）

また、令和2年度は、当支部赤十字防災ボランティアリーダーの牧野純子さんが「防災功労者防災担当大臣表彰」を受賞しました。

本表彰は、災害時に人命救助や被害の拡大防止等の防災活動に顕著な功績を挙げた方や防災思想の普及に顕著な功績を

挙げた方などを内閣府が表彰するものです。

牧野さんは、東日本大震災を契機に赤十字防災ボランティアに携わり、令和元年台風19号災害での赤十字防災ボランティアセンターの運営、資格や知識・技術を活かして考案した非常食レシピを広報紙「日赤みやぎ」に6年以上連載するなど、広く防災意識向上啓発に貢献してきました。

受賞後の挨拶で、牧野さんは、「赤十字防災ボランティア全員を代表した受賞と感じています。災害のとき避難所では炊き出しを、在宅避難では家族向けの非常食レシピを応用することで、みなさんに心と体の健康を保ってほしいです。」と話されました。



当支部から牧野さん(写真左)へ「防災功労者防災担当大臣表彰」を伝達しました。

4. 青年赤十字奉仕団第1ブロック協議会 統一キャンペーン

活動が制限されたことにより、団員のモチベーションの低下やセミナーが実施できないことによる新入団員への知識共有不足などの課題改善に向けた取り組みとして、オンライン研修会「楽しく学ぼう赤十字」を実施しました。

初めての試みでしたが、赤十字の講義やクイズを通して意見交換を行ったこの研修会は好評で、参加者は「自団でもオンラインを取り入れた活動をしていきたい」と気持ちを新たにしました。



オンライン研修会は居住地域を選ばず参加できるメリットも。(青年赤十字奉仕団第1ブロック協議会統一キャンペーン)

5. 赤十字奉仕団活動奨励事業

奉仕団活動をより一層活性化するため、本社が掲げる全国共通活動項目を活動内容とする事業に対し、活動奨励助成金を交付しています。

令和2年度は、コロナ禍での活動の工夫が見られました。高齢者ふれあい訪問や防災マップ作り、チラシやプラカードを活用した献血呼びかけ活動、手作りマスクケースの配付など、各団がだれかの笑顔のために今出来ることを考え、実践しました。

活動内容(全国共通活動項目)	実施団数/助成額
①少子高齢社会に対応した地域高齢者福祉支援活動	43団/ 3,466,597円
②非常災害に対する救援・防災訓練等の活動	8団/ 496,361円
③献血推進や赤十字の理念を達成するための活動	4団/ 292,379円
合計	55団/ 4,255,337円



マスクにメッセージを添えて、高齢者ふれあい訪問。一人一人の感謝と笑顔に胸がほっこり。(気仙沼市赤十字奉仕団上地区分団)

・8 (青少年赤十字 (J R C)

青少年赤十字は、将来を担う青少年が赤十字を正しく理解し、進んで赤十字運動に参加することで、世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら創り上げることを目的とした事業です。

学校の先生を指導者として、幼稚園・保育所、特別支援学校、小・中・高等学校の中に組織され、学校教育・幼児教育の中で進められています。

「気づき、考え、実行する」という態度目標に基づき、世界の青少年赤十字に共通している次の3つの実践目標を掲げて青少年の発達段階や学校内外の実情に応じた活動を展開しています。

令和2年度は、前年度末からの全国一斉臨時休校とそれに伴う授業時数の確保や新型コロナウイルス感染拡大防止の対応のために、これまで実施してきた事業や学校での活動に大きな支障が発生しました。各地区の指導者協議会や加盟校では、感染拡大防止に努めながら制限ある活動を展開しましたが、事業の多くは中止、または環境の整った場合はWebでの開催となったほか、指導者協議会は関係の会議も文書審議や地区指導者協議会の事務局校訪問により代替しました。

1. 青少年赤十字の3つの実践目標

- ①生命と健康を大切にする。(健康・安全)
- ②人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する。(奉仕)
- ③広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う。(国際理解・親善)



2. 市町村別加盟状況

区 分	保育所・幼稚園			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
	加盟校数	メンバー数	指導者数	加盟校数	メンバー数	指導者数	加盟校数	メンバー数	指導者数	加盟校数	メンバー数	指導者数	加盟校数	メンバー数	指導者数
仙 台 市	6	487	68	12	5,572	222	11	4,040	227	9	692	23	2	67	39
白 石 市				2	256	13				2	44	4			
蔵 王 町										1	2	2			
大 河 原 町				1	406	15	2	709	39	2	58	6			
柴 田 町				2	857	39	2	757	43				1	10	3
村 田 町	1	95	11	1	336	12	1	78	9	1	19	2			
川 崎 町	2	126	8	4	319	28	2	206	21	1	12	2			
角 田 市				4	940	53	1	210	9						
丸 森 町				2	36	6									
塩 竈 市				1	224	13	1	301	11						
利 府 町										1	3	1			
多 賀 城 市				1	785	29	1	427	21						
大 和 町				1	19	3									
富 谷 市							1	255	18	1	23	1			
大 衡 村				1	358	15	1	170	15						
名 取 市				3	2,343	79									
岩 沼 市				4	2,516	122	4	1,324	84						
大 崎 市							2	879	66	1	10	3			
栗 原 市	3	122	12	11	2,788	141	1	242	18	3	271	24			
登 米 市				1	84	5	2	542	33						
石 巻 市				1	16	3	2	307	6	3	702	49			
気 仙 沼 市				1	202	8									
合 計	12	830	99	53	18,057	806	34	10,447	620	25	1,836	117	3	77	42
加 盟 率	293園中4.1%			381校中13.9%			210校中16.2%			97校中25.8%			28校中10.7%		

※加盟校がない市町村 東松島市、大郷町、女川町、加美町、色麻町、七ヶ宿町、七ヶ浜町、松島町、美里町、南三陸町、山元町、涌谷町、亶理町

3. リーダーシップ・トレーニング・センター実施状況

令和2年8月4日～6日の日程で、国立花山青少年自然の家を会場に全県中・高校生メンバーを対象として計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により安心安全な事業実施が望めないため中止となりました。

令和3年度は、トレセンプログラムと自然の家での生活を通して、リーダーシップを高め、協力することの大切さについて気づき、自らの行動力を充実させてほしいと考えています。

4. 青少年赤十字研究協力校による発表

令和元・2年度研究協力校の仙台市立高砂中学校が、「気づき 考え 実行する 生徒の育成～協働的な防災教育の実践を通して～」を研究主題に、研修や授業実践を進めました。

令和2年11月13日(金)に実践発表会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大のために紙上発表となりました。また、発表会当日に予定していた講演の内容は、研究のまとめとともに「令和2年度宮城県青少年赤十字のあゆみ」に掲載しました。

協力校 (公開校)	仙台市立高砂中学校
指定年度	令和元・2年度
研究公開日	紙上発表



ダンボールベッドの作成体験



防災学習～防災マークの意味について考える

5. 防災教育事業

「災害からいのちを守る日本赤十字社」の確立を目指し、「防災・減災」に注力した活動を進めています。そのひとつの取り組みとして、青少年赤十字防災教育プログラム『まもるいのち ひろめるぼうさい』を作成し、これを活用した防災教育に取り組んでいます。

また、平成30年8月に、幼稚園・保育所向け防災教材「ぼうさいまちがいがし きけん はっけん!」が発刊され、県内の加盟校12園・所に配付し、活用されています。今年度加盟した施設では学習で活用し、さらに掲示物として利用しているとの情報もありました。今後も広く紹介し、さまざまな活用方法を考えていきます。



青少年赤十字防災教育プログラム『まもるいのち ひろめるぼうさい』
すぐに授業で活用できるよう、指導案や教材、DVD映像集等を集録しています。
他の防災教材と一緒に活用することで、防災学習の深まりに結びつきます。



幼稚園・保育所向け防災教材『ぼうさいまちがいがし きけんはっけん!』
防災・減災の輪が社会全体に広がるよう子どもたちにも自主的に考えてもらい、判断力を養います。
今後、多様な使用例を考察していきたいと考えます。

6. 青少年赤十字国際交流事業

宮城県支部では、平成2年度から海外赤十字社との交流事業を始め、タイ赤十字社とは平成9年度から隔年で相互に訪問する交流事業を続けています。令和2年度はタイ赤十字社RCYメンバーを受け入れる計画でしたが、渡航制限や帰国後の隔離期間により、RCYメンバーが約1ヶ月帰宅できなくなるなど新型コロナウイルス感染拡大が大きいこと、また受入時の交流事業も円滑に行えない可能性が高かったことから、残念ながら交流事業は中止となりました。

9 (会員と活動資金

日本赤十字社では、平成29年4月に社員制度を改正し、毎年2,000円以上の会費を拠出して組織の運営に参画される「会員」と、組織運営への参画までは望まないが、赤十字事業に賛同して活動資金を支えてくださる「協力会員」を募集しています。令和2年度末現在、4,134名の個人会員の皆様と2,010の法人会員様、そして21万人を超える協力会員の皆様に宮城県の赤十字活動を支えていただいております。

令和2年度の活動資金の募集実績は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域における戸別募集等への影響を懸念しておりましたが、遺贈や大口の寄付が多数寄せられたこともあり、計画額に対して133.2%、対前年比は125.5%とお陰様を持ちましてともに上回る事ができました。これからも、さらなる社業基盤の安定と赤十字思想の普及のため、地区・分区、奉仕団、協賛委員並びに地域の奉仕者の皆様方と連携し、赤十字会員の加入促進と併せ、特別社員^{注1)}の称号取得や有功章受章によりご支援くださる会員の勧奨にも努めてまいります。

令和2年度募集実績		実績額	構成比
一般	会費	254,399,621円	63.7%
	寄付金	101,085,800円	25.3%
	指定事業寄付金	7,000,000円	1.7%
法人	指定事業寄付金	7,999,687円	2.0%
	その他寄付金	29,013,498円	7.3%
合計		399,498,606円	—

※この表には、個人住民税控除対象海外救援金は含みません。



銀色有功章^{注2)}



金色有功章^{注2)}



社長感謝状^{注3)}



厚生労働大臣感謝状^{注4)}



紺綬褒章^{注5)}

注1) 赤十字会員で、10年以内に2万円以上ご協力いただいた方への称号です。

注2) 有功章は、ご協力累計額20万円で銀色有功章、同50万円で金色有功章となります。

注3) 社長感謝状は、金色有功章受章後、ご協力累計額50万円毎に贈呈いたします。

注4) 厚生労働大臣感謝状は、1年度内に100万円(法人は300万円)以上のご協力をいただいた方が対象です。

注5) 紺綬褒章は、1～数回で500万円(法人は1,000万円)以上のご協力をいただいた方が対象です。

令和2年度 地区(本部)・分區別社資実績一覧表

地区本部 地区・分区	社 資		内 訳			
			一 般		法 人	
	実績額	協力件数	実績額	協力件数	実績額	協力件数
仙台市	88,442,753円	55,498件	88,352,753円	55,491件	90,000円	7件
石巻市	28,924,350円	14,811件	16,455,850円	14,597件	12,468,500円	214件
塩竈市	3,821,590円	2,434件	3,528,590円	2,404件	293,000円	30件
気仙沼市	7,321,707円	3,096件	7,271,707円	3,095件	50,000円	1件
白石市	5,666,423円	5,855件	5,419,423円	5,804件	247,000円	51件
名取市	6,582,040円	434件	6,577,040円	433件	5,000円	1件
角田市	4,633,816円	137件	4,312,816円	98件	321,000円	39件
多賀城市	7,405,937円	12,580件	7,405,937円	12,580件		
岩沼市	5,215,850円	5,362件	4,817,850円	5,331件	398,000円	31件
登米市	11,234,117円	17,357件	10,081,117円	17,236件	1,153,000円	121件
栗原市	10,483,800円	15,002件	9,696,800円	14,825件	787,000円	177件
東松島市	6,175,150円	99件	5,757,150円	78件	418,000円	21件
大崎市	16,306,952円	16,057件	15,176,452円	15,708件	1,130,500円	349件
富谷市	5,378,625円	3,754件	5,203,625円	3,733件	175,000円	21件
仙南地区	17,182,270円	19,920件	14,926,270円	19,827件	2,256,000円	93件
蔵王町	1,832,700円	3,279件	1,687,700円	3,256件	145,000円	23件
七ヶ宿町	629,650円	498件	559,650円	489件	70,000円	9件
大河原町	3,832,800円	3,650件	3,517,800円	3,626件	315,000円	24件
村田町	1,533,300円	2,231件	1,493,300円	2,225件	40,000円	6件
柴田町	6,194,200円	4,729件	4,594,200円	4,713件	1,600,000円	16件
川崎町	1,146,900円	1,929件	1,146,900円	1,929件		
丸森町	2,012,720円	3,604件	1,926,720円	3,589件	86,000円	15件
仙台地区	19,292,919円	19,235件	18,811,210円	19,174件	481,709円	61件
亘理町	4,215,117円	2,722件	4,215,117円	2,722件		
山元町	2,023,800円	1,278件	2,023,800円	1,278件		
松島町	2,086,300円	4,120件	2,086,300円	4,120件		
七ヶ浜町	2,485,000円	1,460件	2,485,000円	1,460件		
利府町	3,833,136円	4,684件	3,703,136円	4,674件	130,000円	10件
大和町	2,898,157円	2,350件	2,748,157円	2,336件	150,000円	14件
大郷町	1,077,700円	1,937件	1,077,700円	1,937件		
大衡村	673,709円	684件	472,000円	647件	201,709円	37件
大崎地区	10,576,770円	11,198件	10,238,270円	11,120件	338,500円	78件
色麻町	1,029,500円	869件	925,500円	857件	104,000円	12件
加美町	3,429,750円	1,641件	3,429,750円	1,641件		
涌谷町	2,227,280円	1,798件	2,148,780円	1,771件	78,500円	27件
美里町	3,890,240円	6,890件	3,734,240円	6,851件	156,000円	39件
石巻地区	890,000円	27件	890,000円	27件		
女川町	890,000円	27件	890,000円	27件		
気仙沼地区	1,969,700円	3,908件	1,969,700円	3,908件		
南三陸町	1,969,700円	3,908件	1,969,700円	3,908件		
支部扱い	141,993,837円	3,354件	125,592,861円	2,638件	16,400,976円	716件
合 計	399,498,606円	210,118件	362,485,421円	208,107件	37,013,185円	2,011件

10 赤十字思想の普及

コロナ禍で人と接触する機会は制限される中でも、可能な範囲で積極的に広報活動を展開し、奉仕団のみなさんとともに赤十字思想と社旨の普及、活動資金（会費）の募集を推進するほか、赤十字事業への県民の皆様の理解促進と社業進展に努めています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で例年実施しているイベントが中止となったほか、「全国赤十字大会」（本社主催）や「社資功労者感謝のつどい」（宮城県支部主催）などの赤十字活動に功績がある方を顕彰する大会等も一部のみの開催となりました。

事業名	事業内容
インターネット	ホームページ：自家更新システムによるタイムリーな情報提供 当支部独自のクレジット決済受付システムによる活動資金募集 Facebook：日赤の様々な活動を、タイムリーに情報提供しています。 ネット広告：Google、YouTube、SNS（Facebook, Instagram, Twitter）を活用した広告配信（6月～8月、12月～2月）
社旨普及チラシ	活動資金の募集のため、各家庭や町内会での回覧などで配布
広報紙	「日赤みやぎ」年3回発行（5・9・1月）「赤十字NEWS」（本社発行）と併せて各所へ配布
広告掲載	○仙台北法人会、仙台中法人会、仙台南法人会の広報紙に折り込み広告を実施 ○河北新報社アドハイライト 広告掲載（2月）

行事名	開催日	場所	参加者数
仙台市地区本部赤十字奉仕団大会	8/26	仙台市福祉プラザ（青葉区）	140名
石巻市地区赤十字大会	11/24	石巻市河北総合センター「ビッグバン」（石巻市）	54名



広報紙「日赤みやぎ」



活動資金募集チラシ



法人向け広報では在仙プロレス2団体とコラボ


新型コロナウイルス感染症は、世界中で感染の拡大が続いている状況です。

この感染症は、「病気」「不安」「差別」という3つの意味、すなわち「3つの顔」を持っており、これらが“負のスパイラル”としてつながることで、さらなる感染の拡大につながっています。

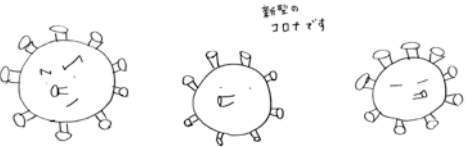
日本赤十字社では、この“負のスパイラル”を知り、断ち切るためのガイドとして「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」を作成しました。印刷物の配布やオンラインを通じて、地域や教育現場などで積極的に活用されています。

なお、このガイドラインは、宮城県支部ホームページからご覧いただけます。

新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～

 **新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！**
～負のスパイラルを断ち切るために～

新型コロナウイルスの3つの顔



1

新型コロナウイルスによる感染が流行しています。

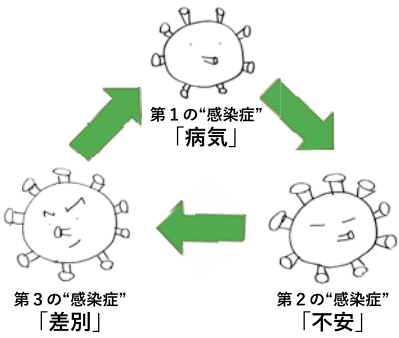
ワタシには3つの顔がある
ふっふっふ...

実はこのウイルスが怖いのは、「**3つの“感染症”**」という顔があることです。

知らず知らずのうちに私たちも影響を受けていることをみなさんにご存知ですか？

2

3つの“感染症”はつながっている



ひとりひとりが気を付けないと
ワタシはごやごやって力をつけていくよ...

3

ウイルスがもたらす
第1の“感染症”は病気そのものです

このウイルスは、感染者との接触でうつることがわかっています。

感染すると、風邪症状や重症化して肺炎を引き起こすことがあります。




4

ウイルスがもたらす
第2の“感染症”は不安と恐れです

このウイルスは見えません。ワクチンや薬もまだ開発されていません。

わからないことが多いため、私たちは強い**不安や恐れ**を感じ、ふりまわされてしまうことがあります。

それらは私たちの心の中でふくらみ、**気づく力・聴く力・自分を支える力**を弱め、瞬く間に人から人へ伝染していきます。

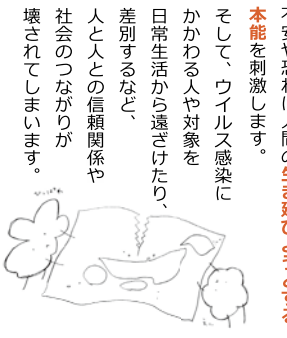


5

ウイルスがもたらす
第3の“感染症”は嫌悪・偏見・差別です

不安や恐れは人間の**生き延びようとする本能**を刺激します。

そして、ウイルス感染にかかわる人や対象を日常生活から遠ざけたり、差別するなど、人と人の信頼関係や社会のつながりが壊されてしまいます。



6

なぜ、嫌悪・偏見・差別が生まれるのか

見えない敵（ウイルス）への不安

特定の対象を見える敵と見なして嫌悪の対象とする

嫌悪の対象を偏見・差別し遠ざけることでつかの間の安心感が得られる

敵はウイルス

敵がすり替わってしまう

本当の敵を見なくなる

あんなこと言っちゃったけど...

でも私もいつ言われるかわからない... あん...

△△地区は危ない

咳をしているあの人がコロナかも。

××人だ、危ない

7

3つの“感染症”はどっしながっしするの？

負のスパイラルで“感染症”が広がる

①未知なウイルスでわからないことが多いため不安が生まれる

②人間の生き延びようとする本能によりウイルス感染にかかわる人を遠ざける

③差別を受けるのが怖くて熱や咳があっても受診をためらい、結果として病気の拡散を招く

第1の“感染症”「病気」

第2の“感染症”「不安」

第3の“感染症”「差別」

この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることであります。

9

第1の“感染症”をふせぐために

1人1人が衛生行動を徹底しましょう。

「手洗い」

「咳エチケット」

「人混みを避ける」

など、

ウイルスに立ち向かうための行動を、自分のためだけではなく周りの人のためにもすることが大切です。

手洗いしっかり

11

第2の“感染症”にふりまわされないために

不安や恐れは私たちの気づく力

聴く力

自分を支える力を弱めます。

不安や恐れは身を守る為に必要な感情ですが、私たちから力を奪い、冷静な対応ができなくなることもあります。

12

第3の“感染症”をふせぐために

不安を煽ることは病気に対する偏見や差別を強めます。

・「確かな情報」を拡げましょう。

・差別的な言動に同調しないようにしましょう。

コロナのやつ出ていけ！

そうだ！

16

第3の“感染症”をふせぐために

みなさんそれぞれの場所で感染を拡大しないように頑張っています。

- ・小さな子どもがいる家庭
- ・高齢者
- ・治療を受けている人とその家族
- ・自宅待機している人
- ・医療従事者
- ・日常生活を送って社会を支えている人

この事態に対応しているすべての方々に、**ねぎらい、敬意を**払いましょう。

17

まとめ

3つの感染症をみんなで乗り越えていくために

このように、新型コロナウイルスは、3つの“感染症”という顔を持って、私たちの生活に影響を及ぼします。

このウイルスとの戦いは、長期戦になるかもしれません。

それぞれの立場でできることを行い、みんなが一つになって負のスパイラルを断ち切りましょう！

第1（病気）

第2（不安）

第3（差別）

ONE TEAM

18

「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」

発行年月 2020年3月26日 初版
発行 日本赤十字社新型コロナウイルス感染症対策本部 ©日本赤十字社 2020

We are One Team!!

【監修】 諏訪赤十字病院 森光 玲雄
国際赤十字・赤新月社連盟心理社会センター登録専門家

【執筆協力】 日本赤十字社医療センター 秋山 恵子 (イラスト)
宮本 敦子
伊勢赤十字病院 中井 美里
本社 事務局 堀 乙彦
救護・福祉部 武口 典里花
国際部 山内 友和
災害医療統括監 佐藤 展章
丸山 結 霧一

内容について、許可なく複製・改変・トレース・翻印を禁じます。引用、印刷、電子データでの配布等の際には、出典を明記の上、ご活用ください。

19

11 (令和2年度決算)

○一般会計 〈日本赤十字社宮城県支部〉

歳入歳出状況 (単位：円)

歳 入		歳 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
社 資 収 入	399,498,606	災害救護事業費	115,358,338
委託金等収入	6,963,011	社会活動費	64,746,800
補助金及び 交付金収入	23,158,686	国際活動費	1,217,000
災害義援金 預り金収入	33,070,807	指定事業 地方振興費	7,000,000
繰入金収入	46,306,413	地区分区 交付金支出	50,688,064
資産収入	978,000	社業振興費	61,082,353
雑収入	5,162,368	積立金支出	15,124,646
前年度繰越金	24,269,495	総務管理費	51,436,014
		資産取得及び 資産管理費	9,251,281
		本社送納金支出	57,674,837
合 計	539,407,386	合 計	433,579,333
歳入歳出差引残高 105,828,053 (翌年度繰越金)			

○医療施設特別会計 〈仙台赤十字病院〉

収益の収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
医 業 収 益	7,401,972,959	医 業 費 用	7,945,197,908
医 業 外 収 益	1,185,717,015	医 業 外 費 用	53,559,615
医療社会事業収益	22,455,469	医療奉仕費用	36,241,913
付帯事業収益	0	付帯事業費	0
特 別 利 益	3,438,198	特 別 損 失	2,035,297
		法 人 税 等	368,476
合 計	8,613,583,641	合 計	8,037,403,209
収入支出差引額 576,180,432			

〈石巻赤十字病院〉

収益の収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
医 業 収 益	118,267,972,957	医 業 費 用	18,574,779,151
医 業 外 収 益	2,060,683,172	医 業 外 費 用	153,533,302
医療社会事業収益	342,951	医療奉仕費用	41,199,506
付帯事業収益	132,735,907	付帯事業費用	188,434,326
特 別 利 益	11,464,043	特 別 損 失	17,499,891
		法 人 税 等	6,470,704
合 計	20,473,199,030	合 計	18,981,916,880
収入支出差引額 1,491,282,150			

資本的収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
固 定 負 債	86,451,250	固 定 資 産	104,337,050
資産売却収入	0	借入金等償還	98,816,096
その他資本収入	116,701,896	そ の 他 負 債	0
合 計	203,153,146	合 計	203,153,146
収入支出差引額 0			

資本的収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
固 定 負 債	659,938,340	固 定 資 産	1,068,474,099
資産売却収入	0	借入金等償還	528,544,000
その他資本収入	937,079,759	そ の 他 負 債	0
合 計	1,597,018,099	合 計	1,597,018,099
収入支出差引額 0			

赤十字のはじまり

1859年、スイス人 アンリー・デュナンは、第2次イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノに程近いカスティリオーネで、戦野に放置されていた傷病兵の悲惨な有り様を目の当たりにしました。

その時、デュナンは「傷ついた兵士は、もはや兵士ではなく、人間である。人間同士として尊い命を救わなければならない。」という思いを抱き、住民の協力を得て、敵味方の区別なく救護に努めました。この体験を記した著書「ソルフェリーノの思い出」がデュナンの抱いた思いの尊さを世界に広め、1863年に赤十字国際委員会が、また1919年には平時活動を担当する国際赤十字・赤新月社連盟が創設されました。

日本赤十字社の誕生

日本赤十字社は、1877年の西南戦争の際、きの つねたみ おぎゅうゆずる佐野常民と大給 恒によって設立された救護団体「博愛社」が前身です。(1887年「日本赤十字社」に改称。)

彼らは官軍・薩摩軍双方に多数の死傷者が出ている悲惨な状況に、戦争時の傷病者救護の必要性を痛感して博愛社の設立を明治政府に願い出ます。「敵味方の区別なく救護する」ことへの理解が得られずに一度は却下されますが、佐野は熊本の官軍司令部に赴き、西南戦争の征討総督であったありすがわのみやたるひと有栖川宮熾仁親王へ直接願い出て、親王の英断によりその設立が認められました。

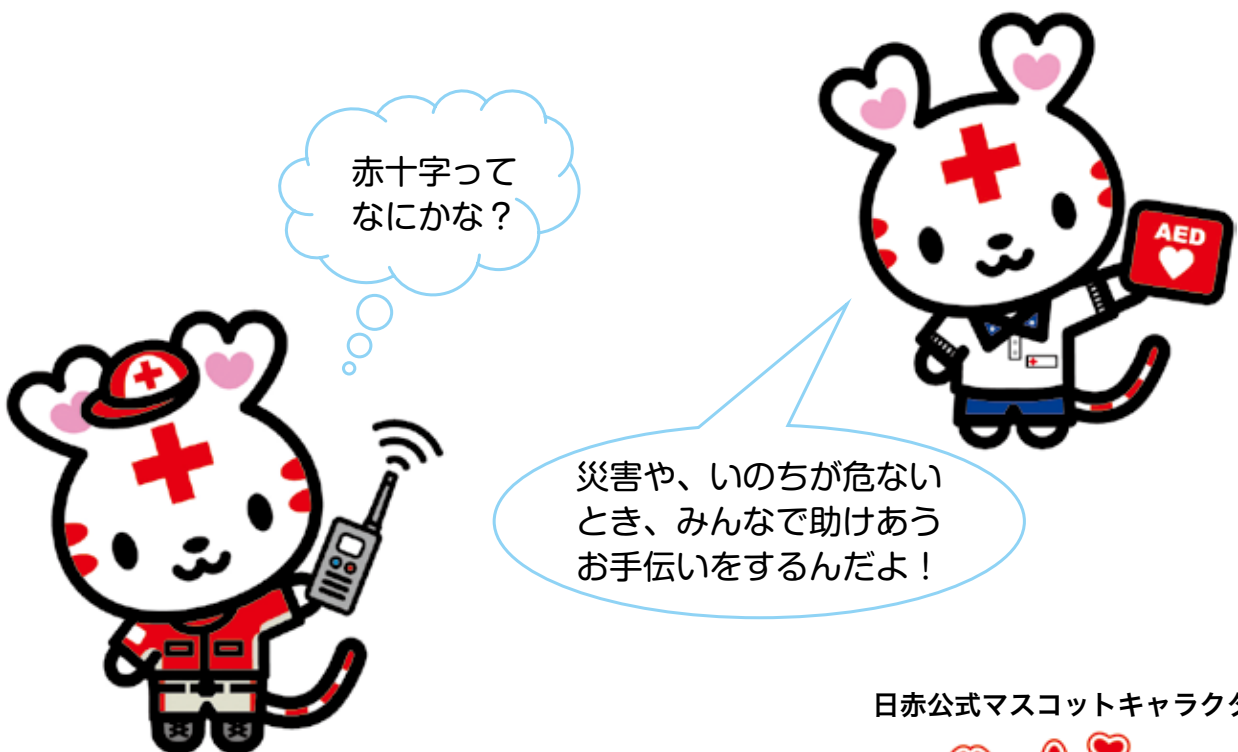
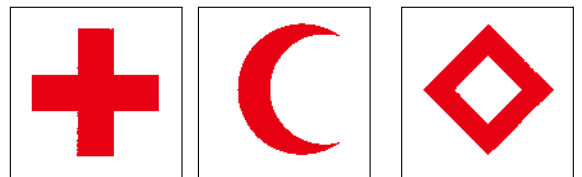
宮城県支部は、1887年に「日本赤十字社宮城県委員部」として開設され、1894年支部に昇格して現在に至ります。

赤十字の標章

赤十字の標章は、1863年の国際会議において、創始者アンリー・デュナンの祖国スイスに敬意を表し、スイス国旗の配色を転用して「白地に赤十字」と決められました。現在は、イスラム教国の多くが「白地に赤い三日月(赤新月)」のマークを使っていますが、これも赤十字と全く同じ組織であることを示す標章として認められています。また、2007年1月には「白地に赤いひし形(レッドクリスタル)」が追加され、これを使用する国は、レッドクリスタルの中にその国独自のマークを入れて使用することが認められました。

これらの標章は、保護の標章として、戦時において軍の衛生部隊に所属する人、建築物、施設、車両及び資材等に付し、付されたものを攻撃対象としてはならないと決められています。また、表示の標章として、赤十字社の建物、自動車、出版物等に対し、赤十字の目的達成のために使用されます。

赤十字標章の使用は、国際法「ジュネーブ条約」、さらにそれぞれの国内法(日本では「赤十字の標章及び名称等の使用の制限に関する法律」昭和22年法律第159号)により厳しく制限されています。



日赤公式マスコットキャラクター

ハートちゃん

これからも
ご協力よろしく
お願いします



日赤公式マスコットキャラクター

ハートちゃん

■宮城県の赤十字支部・施設

名 称	所在地・ホームページ	電話・FAX
日本赤十字社宮城県支部	〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 ホームページ http://www.miyagi.jrc.or.jp/	☎ 022 (271) 2251 FAX 022 (275) 3004
仙 台 赤 十 字 病 院	〒982-8501 仙台市太白区八木山本町2-43-3 ホームページ http://www.sendai.jrc.or.jp/	☎ 022 (243) 1111 FAX 022 (243) 1101
石 巻 赤 十 字 病 院	〒986-8522 石巻市蛇田字西道下71 ホームページ http://www.ishinomaki.jrc.or.jp/	☎ 0225 (21) 7220 FAX 0225 (96) 0122
石巻赤十字看護専門学校	〒986-8522 石巻市蛇田字西道下71 ホームページ http://www.ishinomaki.jrc.or.jp/medical/school.html	☎ 0225 (92) 6806 FAX 0225 (95) 5015
宮城県赤十字血液センター	〒981-3206 仙台市泉区明通2-6-1 ホームページ http://www.miyagi.bc.jrc.or.jp/	☎ 022 (290) 2501 FAX 022 (777) 6335
献血ルームAER20	〒980-6120 仙台市青葉区中央1-3-1 アエル20階	☎ 022 (711) 2090
杜の都献血ルームAOBA	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-9-18 TICビル6階	☎ 022 (738) 9101
登米供給出張所	〒987-0511 登米市迫町佐沼字小金丁48-1	☎ 0220 (22) 2898



日本赤十字社 宮城県支部
Japanese Red Cross Society